（別紙4）　令和　2　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401269		
法人名	有限会社　薫風		
事業所名	グループホーム 陽だまりの家		
所在地	長崎県南島原市西有家町里坊109番地		
自己評価作成日	令和2年9月25日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和2年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

感染予防、対策の為に外出やイベントの参加は難しくなっていますが、ホーム周りには花壇や畑があり、花をみながらのお茶会や芋ほりなど体を動かし、外の空気を体感出来る時間、環境を作っています。

ホームのリビングから平成新山を臨み、入居者は周囲に広がるのどかな田園風景やホーム花壇のケイトウやコスモス、ミニバラなどの花々から季節を感じることができる。今年度はコロナ禍のため地域清掃活動など地域活動が制限される中、自主的に側溝の掃除や草刈りを行うほか、ホーム前の畑で作業する農家の方にお茶を差し入れるなど、地域との繋がりを大切にしている。また、自治会長が協力的で当ホームをよく理解しており、地域との連携を密にし有事の際の協力体制を構築している。職員は理念に沿った支援に取り組み、同じ目線での声掛けや介助する際は事前の説明や同意を得た上で行うなど、入居者の誇りを損ねないよう努めている。ホームは母体医療機関との24時間連絡体制によって昼夜を問わず早期に治療できる体制を整えており、入居者及び家族の安心感へと繋がっている。また、看取りに関しても本人及び家族の意向に沿った親身な支援に努め、家族が死別による悲しみから立ち直れるようグリーフケアに取り組むなど、入居者や家族を大切にした家庭的で温かなホームであることが窺える。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット名　薄雲

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟の玄関、事務所、休憩室に掲示してあり、全員職員が共有し実践している。	開設当初から掲げるホーム理念は、職員が出勤時に確認できるよう玄関に掲示することで周知を図っている。ホームでは月初めに各ユニットで月目標を設定し、申し送りノートを活用して職員間での共有を図るとともに、入居者が地域の中で従来の生活スタイルの継続や思いに沿った暮らしが実現できるよう介助方法を話し合うなどし、理念の実践へと繋げている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内外の行事に参加し地区の話し合いや清掃活動などを通じ交流している	ホームは自治会の回覧板や自治会長の訪問を通じて地域の情報を得ており、ホーム前の畑で作業する農家の方にお茶を提供し交流を図るなど、地域との繋がりを大切にしている。地元の秋祭りでは旗立てなどの準備に男性職員が協力し、地域の方にも好評である。今年度はコロナ禍のため地域清掃活動の開催がなかったが、側溝の掃除や草刈りを自主的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GHの行事の参加や面会を通して、地域の方にも認知症の方の支援を知ってもらっている		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職員や民生委員、御家族の方に入所、空室の状況、健康状態や通院の有無、行事等の案内、報告、GHでの委員会の取り組みなどを話し合っている。	運営推進会議開催の案内を薫風新聞と一緒に家族へ郵送し、会議への参加を促している。昨年度の会議には市地域包括支援センター職員・民生委員・地域住民・家族の参加があり、ホームの実情を伝えるとともに参加者から提案や要望を聞き取っている。地域住民の方から得た紅葉の情報をもとに弁当を持参し紅葉見学に行くなど、入居者の楽しみやサービスの向上に繋げている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査の申請、生活保護手続き、災害設備の設置、推進会議を通じて行事の案内など行っている。	ホームは島原地域広域市町村圏組合や市地域包括支援センターへ、ホームの実情と空き状況を定期的に電話やFAXで伝えており、市福祉課とは生活保護に関する相談や家族からの依頼で申請代行を行うなど協力関係を築いている。今年5月には市の補助制度を活用し、停電に備えて自家発電機を設置している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を元に身体拘束委員会を設置し、委員会を中心とした研修会を定期的に開催し、ここの意思理解を高め身体拘束0を目指している。	今年1月には島原地域広域市町村圏組合主催の「高齢者虐待防止法と身体拘束」の研修会に管理者と身体拘束廃止委員長が参加し、他職員への伝達講習を行った。また、今年度法人内においても2回研修を行っており、多くの職員が参加し理解を深めている。外に出たいと希望する方には危険が及ばない範囲で職員による見守りを行い、一緒に散歩するなどし気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃より、虐待防止の研修会への参加、自分たちの取り組みとして、職員会議で月目標や日々の業務の中でお互い注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の方と話し合いを行いより良く活用できるよう務めている、又、分からない事は、市の担当者へ尋ねたり研修会等参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約においては、家族等の考え疑問点を真摯に受け入れ対応している。十分な説明を行い、理解して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、ご要望の受付箱の設置や、アンケートの実施、当施設担当者・相談員の聞き取りを行っている。	職員はホームでの行事や入居者の生活の様子を薫風新聞で家族に知らせるとともに、受診結果や入居者からの購入要望などは直接電話で伝えている。入居者本人や家族からの「ラジオ体操などで身体を動かして欲しい」「相撲を見せて欲しい」「コーヒーを提供して欲しい」などの要望については申し送りノートで共有し、実践することで入居者の喜びに繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案できる機会として職員会議を行っている。日頃より意見交換できる時間も作るよう努めている。申し送りや申し送りノートにて周知できるように務めている。	管理者は毎月職員会議の際に職員の意見を聞くとともに、職員から挙がった意見は管理者から施設長へ伝えることで運営に反映し、透明性を図っている。物品の保管場所の変更や浴室での入居者の転倒を防止できるよう滑り止めマットを購入するなど、職員からの提案をもとに随時運営に反映することができている。また、職員が外部研修に参加しスキルアップできるよう勤務調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善による環境整備の増設、給与に反映されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連施設による合同研修会や合同委員会の参加。外部への研修も出来る限り参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に合同ホーム長会議に参加し、同業者との交流を持ち、意見交換や情報収集等に努め施設のサービスの質を向上させるよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するにあたり本人の不安や要望等に耳を傾けながら信頼関係作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意思などを聞き入れながら、サービスをすることで、信頼関係を作っている。コロナウイルス感染症対策の為、主に電話にて行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に本人と家族がどのような支援を必要としているのか確かめ対応出来るか検討し支援に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護する上で、本人の様子を把握し利用者の信頼関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への電話連絡を行ったり面会出来る時には、本人の今の状況を伝えたりしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症対策の為、規模は小さくなったが敬老会や納涼会などを行い、施設内の交流をしている。	管理者は家族面会時に家族写真を撮影し、居室に飾ったり家族に渡している。また、コロナ禍にある現状を踏まえ面会を制限しているが、「いつでもご家族に電話しますよ」と入居者に伝えたり、現時点の面会状況を家族に手紙で報告し電話の取り次ぎも可能である旨伝えるなど、入居者と家族の関係性が継続できるよう支援している。遠方の家族にはテレビ電話による面会を行い、入居者・家族双方の安心に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の話をされているときは見守り、孤立しているときは職員が中に入って話しかけ入居者同士の信頼関係の手助けを行う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでと変わらず、必要に応じて、本人、家族の要望になるべく応えられるように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活状態や習慣等を理解し、本人の意向を聞き取り本人と話し検討している。	ホームでは職員の入居者への接し方や介助方法について検討する機会を設け、入居者一人ひとりの生活スタイルに応じた支援に取り組んでいる。また、10時と15時には入居者と一緒にお茶を飲みながらゆっくりと話すことで思いの把握に努めている。職員は入居者の表情や動作を観察することで本人の状態を把握するとともに、必要な支援の提供へと繋げている。入居者の希望に応じて墓参りの支援を行うなど、本人の気持ちを大切に考えながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでと変わらない生活環境を作る為、馴染の物を使用して頂き食習慣にも配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分らしく生活が出来る様に本人の出来る事・出来ないことを把握し自立支援に努めたケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の生活状態や希望・家族の要望を基に課題と目標を作りケアプランなどを作成し介護を行っている。	ケアプランについて、ホームでは入居者の心身の状況に応じた見直しや家族・管理者・職員によるサービス担当者会議を6か月毎に開催し、現状に即したプランとなるよう努めている。尚、家族が参加できない場合は電話で意向を確認している。新規入居者のプランについては入居後1か月で見直しを行い、本人の意向に沿った内容であるか確認している。職員はサービス内容の実施状況を毎日介護経過記録に記入することでプラン内容の把握に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテに生活の状況や出来事を記録し情報を職員間で共有し支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況などや家族に対しての支援やサービスを出来る様に努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症対策の為、施設外のイベント等には参加できていない。また、学生の研修なども出来る限り受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、施設関連の病院をかかりつけ医にしてもらっているが、専門的な事例に関しては、かかりつけ医を受診されている。	緊急時における母体医療機関との24時間連絡体制を構築しており、早期対応に繋げている。また、週1回医療連携看護師が訪問し、入居者の病状の把握に繋げるとともに、処置など必要な方には職員へ指示し対応している。また、従来からのかかりつけ医を継続受診できるよう職員による同行支援を行っており、受診後の留意点は申し送りノートにて共有を図り、入居者の状態把握に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により健康チェックし早期発見や症状の変化を観察し、異常時は直ぐに医療機関に状態報告の連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、病院と情報交換を行い、利用者の意思を確認しながら、再入所の準備を行い、退院できる環境を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎えるにあたり、Drと家族、職員が話し合い、意見を確認しながら希望に沿った支援に取り組んでいる。	ホームで対応し得る最大のケアについて、入居前に家族へ説明し同意を得ている。昨年度は看取りを経験し、臨終の際には職員全員で温かく見送り、その後も家族の相談に対応するなどグリーフケア（死別による悲しみから立ち直れるよう支援すること）にも取り組み、本人及び家族の意向に沿った支援に努めている。昨年度は法人内での看取りに関する研修会に参加し学びの機会とした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が勉強会や消防署での応急手当の研修などに参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年２回・火災を想定した消防署立会いの訓練や指導を受けている。	母体医療機関内の防火対策委員会に職員も委員として出席し、知識を深めている。また、有事に備えて運営推進会議を通じて地域の方への協力依頼や、地元消防団員である食料品納入業者へ協力を依頼するなど、地域との協力体制を築いている。今年度の台風接近時には系列施設へ避難し入居者の安全確保を図り、加えてホーム横の溝の水位が上昇し浸水した経験を踏まえ、行政からの情報収集や土嚢を積むなどし浸水防止にも努めている。	ホーム備蓄品に関して備蓄食の一覧表を作成している。避難先での入居者の安全やスムーズな対応に繋げられるよう、例えば生活用品に関する一覧表や、入居者に関する情報を記載した一覧表を作成するなどし、備蓄品の整備や職員間で情報共有を進めるなど今後の取り組みが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止委員会での勉強会をもとに、職員の言葉使いや、利用者様への接し方などを確認しながら、利用者様のプライバシー保護に注意している。	今年4月に母体医療機関内でのコンプライアンスに関する研修会に参加し、入居者への倫理や尊厳について知識を深めるとともに、支援の振り返りの機会を持った。職員に不適切な言葉掛けがあった時はその都度注意し合い改善に努めており、トイレ誘導時の声掛けも入居者の耳元で行うことで羞恥心に配慮している。入居者を介助する際は事前の説明や同意を得た上で行い、その方の誇りを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる言葉がけを行い、要望、希望を伺い、寄り添った行動を行う様心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの方の生活を把握し、本人の要望を確認しながら寄り添ったケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備などする際、着たい洋服などを確認しながら準備を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる様な食材を取り入れ入居者の希望も取り入れながら提供に心掛けている。	献立は職員が毎週交代で作成しており、入居者のリクエストにも応えるなど食事が楽しいものとなるよう努めている。尚、食事療法が必要な方については母体医療機関の管理栄養士へ相談し対応している。食卓に入居者と一緒にホームの畑で収穫した野菜を並べることで季節を感じ、入居者の喜びとなっている。また、入居者の状態に合わせてミキサー・トロミ・一口大・刻み食に対応しており、安全に食事が摂れるよう配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態を把握し、それぞれに合った食事形態で提供を行っている。水分補給には好まれている飲み物を提供し水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの誘導、声掛けを行っている。義歯の磨き残しがないように介助を行っている。テレビ体操なども行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し排泄パターンを理解し、声掛け、誘導支援を行っている。ズボン、パンツの上げ下げなど自立にて行えるよう声掛け支援を行っている。	職員は排泄記録表を確認し、時間を見ながら適宜誘導することでトイレでの排泄に繋げている。また、入居者が安眠できるよう夜間帯に使用する尿取りパットの種類を検討するほか、リハビリパンツや尿取りパット類の1か月の使用量をもとに介助方法の見直しを行うことで、適切な使用や入居者の排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。排泄失敗時には清拭や入浴を行い保清に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録、パターンを理解し、牛乳、食物繊維豊富な食事メニューを心がけ、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望に添えるように努めている。自立にて洗ったりすることにより、入浴の楽しみと身体の清潔感を味わっていただいている。	入浴は隔日実施を基本としているが、希望に応じて毎日の入浴も可能であり、同性介助の希望にも対応している。重度の方についてはリクライニングシャワーキャリーを使用し2人介助で入浴支援を行っており、浴室内には滑り止めマットを設置するなど入居者が安全に入浴できるよう配慮している。入浴中は入居者の好みのシャンプーを使用し、ゆっくり話をしながら楽しい時間となるよう努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や身体状況を把握・考慮し、安心して休まれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬できるよう、最後の飲み込み確認を行っている。また、誤薬のないよう服用前は、名前確認も必ず行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、テーブル拭き、お盆拭きなど個々の能力に応じたお手伝いを、職員と一緒に行うことで生活のメリハリをもつことを心がける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症対策の為、施設外への外出はしていないが、施設内で納涼会(花火)などをおこなっている。	職員は天気が良い日にはホーム玄関先で平成新山や花壇の季節の花々を眺めながら外気浴を行い、入居者の気分転換を図っている。また、入居者の状態を見ながら外出先を検討し、全ての入居者がドライブや花見に出掛けられるよう支援している。入居者が家族と外出する際には健康状態を伝えたり事前に排便コントロールを行ったりするなど、外出が楽しいものとなるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な買い物は、要望に応じて代理購入を行っている。不正のない様、本人、職員2名にて金銭確認を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた時は、本人了承の元、開封、読み上げ、内容の説明などの支援を行っている。必要性のある電話については、取り次ぎや代理にて電話をかけ、確実に内容が伝わる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾物を変化させることにより、季節を感じていただく。天気、気温の変化に注意し、空調の活用を行っている。快適に過ごしていただくよう、共用の空間の整理整頓を常に行っている。	リビングの大きな窓からは平成新山を臨めるほか、ホーム花壇に植えられたケイトウやコスモス、ミニバラなどの花々から季節を感じることができる。共用空間にある天窓からは温かな光が差し込み開放感にあふれ、対面式のキッチンで調理する職員の姿から家庭的な雰囲気が感じられる。また、スプリンクラーを10か所に設置しており、安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内、窓際に椅子を並べ、又、車いすも入るスペースも確保し、食堂でお話しされたりテレビをみたりして自由に生活できる環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族が持参された写真、などを飾り、落ち着かれる雰囲気を作り、本人様にとって居心地の良い空間を作られるように心掛けている。	掃き出し窓から差し込む光が温かな雰囲気を醸し出している。ホームでは入居者の希望に応じて畳の部屋を準備するほか、衣装ケース・テレビ・空気清浄機・時計など使い慣れた物を持ち込むことで、自宅での生活に近づけられるよう支援している。室内には家族や孫の写真、誕生カードなどを掲示するほか、ベッドサイドのテーブルに面会時に撮影した家族写真のアルバムを準備することで、家族と離れて暮らすことによる入居者の寂しさに配慮した支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人で使用されている物などは、所定の場所を決め、日々の生活の中で理解していただくよう努め、自分で出来ることの喜びを深めてもらう様に心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名　紅梅

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟の玄関、事務所、休憩室に掲示してあり、全員職員が共有し実践している。		
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内外の行事に参加し地区の話し合いや清掃活動などを通じ交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GHの行事の参加や面会を通して、地域の方にも認知症の方の支援を知ってもらっている		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職員や民生委員、御家族の方に入所、空室の状況、健康状態や通院の有無、行事等の案内、報告、GHでの委員会の取り組みなどを話し合っている。		
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査の申請、生活保護手続き、災害設備の設置、推進会議を通じて行事の案内など行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を元に身体拘束委員会を設置し、委員会を中心とした研修会を定期的に開催し、ここの意思理解を高め身体拘束0を目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃より、虐待防止の研修会への参加、自分たちの取り組みとして、職員会議で月目標や日々の業務の中でお互い注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の方と話し合いを行いより良く活用できるよう務めている、又、分からない事は、市の担当者へ尋ねたり研修会等参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約においては、家族等の考え疑問点を真摯に受け入れ対応している。十分な説明を行い、理解して頂いた上で契約を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、ご要望の受付箱の設置や、アンケートの実施、当施設担当者・相談員の聞き取りを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案できる機会として職員会議を行っている。日頃より意見交換できる時間も作るよう努めている。申し送りや申し送りノートにて周知できるように務めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善による環境整備の増設、給与に反映されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連施設による合同研修会や合同委員会の参加。外部への研修も出来る限り参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に合同ホーム長会議に参加し、同業者との交流を持ち、意見交換や情報収集等に努め施設のサービスの質を向上させるよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や要望等に耳を傾けながら信頼関係作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意思などを聞き入れながら、サービスをすることで、信頼関係を作っている。コロナウイルス感染症対策の為、主に電話にて行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がどのような支援を必要としているのか確かめ、それに対しての対応を努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護する上で、本人の様子を把握するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要事項などある場合、家族に連絡を行ったり面会時、本人の今の状況を伝えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症対策の為、規模は小さくなったが敬老会や納涼会などを行い、施設内の交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の話をされているときは見守り、孤立しているときは職員が中に入って話しかけたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでと変わらず、必要に応じて、本人、家族の要望になるべく応えられるように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どうしてほしいか、本人の意向を把握し時と場合では、本人と話し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでと変わらない生活環境を目指して努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、一人ひとりの様子や行動など常に把握するように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良くっ暮らしてもらうためにケアプランなどを作成し介護を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し、違いがある時は、見直しなどをして実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況などや家族に対しての支援やサービスを出来る様に努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症対策の為、施設外のイベント等には参加できていない。また、学生の研修などはコロナ感染の状況を見ながら出来る限り受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、施設関連の病院をかかりつけ医にしてもらっているが、専門的な事例に関しては、かかりつけ医を受診されている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日病院と連絡を取り合っている。また、特変時はいつでもDrと連絡を取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、病院と情報交換を行い、利用者の意思を確認しながら、再入所の準備を行い、退院できる環境を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎えるにあたり、Drと家族、職員が話し合い、意見を確認しながら希望に沿った支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での勉強会に参加しスキルアップに努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	5月11月と避難訓練を行い、利用者様の安全を考え話し合いを行っている。また5月は、コロナ感染症対策の為地域の方には声掛けは行っていない。施設内関係者のみで行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止委員会での勉強会をもとに、職員の言葉使いや、利用者様への接し方などを確認しながら、利用者様のプライバシー保護に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる言葉がけを行い、要望、希望を伺い、寄り添った行動を行う様心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの方の生活を把握し、本人の要望を確認しながら寄り添ったケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備などする際、着たい洋服などを確認しながら準備を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが、利用者様の前で、チャーハンやお好み焼きなど、出来立ての状態で提供し食べて頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態を把握し、それぞれに合った食事形態での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの誘導、声掛けを行っている。義歯の磨き残しがないように介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し排泄パターンを理解し、声掛け、誘導支援を行っている。ズボン、パンツの上げ下げなど自立にて行えるよう声掛け支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録、パターンを理解し、牛乳、食物繊維豊富な食事メニューを心がけ、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに、入浴を行い、自立にて洗ったりすることにより、入浴の楽しみと身体の清潔感を味わっていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後より、自由に居室にて休まれる時間を作ることにより、身体への負担軽減に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬できるよう、最後の飲み込み確認を行っている。また、誤薬のないよう服用前は、名前確認も必ず行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、テーブル拭き、お盆拭きなど個々の能力に応じたお手伝いを、職員と一緒に行うことで生活のメリハリをもつことを心がける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症対策の為、施設外への外出はしていないが、施設敷地内で納涼会(花火)などをおこなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な買い物は、要望に応じて代理購入を行っている。不正のない様、本人、職員2名にて金銭確認を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた時は、本人了承の元、開封、読み上げ、内容の説明などの支援を行っている。必要性のある電話については、取り次ぎや代理にて電話をかけ、確実に内容が伝わる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾物を変化させることにより、季節を感じていただく。天気、気温の変化に注意し、空調の活用を行っている。快適に過ごしていただくよう、共用の空間の整理整頓を常に行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内、窓際に椅子を並べ、又、車いすも入るスペースも確保し、集まってお話出来る空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族が持参された写真、などを飾り、落ち着かれる雰囲気を作り、心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人で使用されている物などは、所定の場所を決め、日々の生活の中で理解していただくよう努め、自分で出来ることの喜びを深めてもらう様に心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名　若菜

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟の玄関、事務所、休憩室に掲示してあり、全員職員が共有し実践している。		
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内外の行事に参加し地区の話し合いや清掃活動などを通じ交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GHの行事の参加や面会を通して、地域の方にも認知症の方の支援を知ってもらっている		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職員や民生委員、御家族の方に入所、空室の状況、健康状態や通院の有無、行事等の案内、報告、GHでの委員会の取り組みなどを話し合っている。		
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査の申請、生活保護手続き、災害設備の設置、推進会議を通じて行事の案内など行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を元に身体拘束委員会を設置し、委員会を中心とした研修会を定期的に開催し、ここの意思理解を高め身体拘束0を目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃より、虐待防止の研修会への参加、自分たちの取り組みとして、職員会議で月目標や日々の業務の中でお互い注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の方と話し合いを行いより良く活用できるよう務めている、又、分からない事は、市の担当者へ尋ねたり研修会等参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約においては、家族等の考え疑問点を真摯に受け入れ対応している。十分な説明を行い、理解して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、ご要望の受付箱の設置や、アンケートの実施、当施設担当者・相談員の聞き取りを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案できる機会として職員会議を行っている。日頃より意見交換できる時間も作るよう努めている。申し送りや申し送りノートにて周知できるように務めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善による環境整備の増設、給与に反映されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連施設による合同研修会や合同委員会の参加。外部への研修も出来る限り参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に合同ホーム長会議に参加し、同業者との交流を持ち、意見交換や情報収集等に努め施設のサービスの質を向上させるよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始まえは家族や本人の意向を確認傾聴し　信頼関係を気付くと共に安心して頂ける様努める		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して頂ける様　情報の共有を行い　家族の立場になり　考え安定した　関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の意向に沿える様　又　適切なアドバイスを行える様な　対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	住み慣れた地域での生活が　共同生活にも生かせる様　声をかけたり　支え合い生活がが出来る様　対応している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や　電話連絡時は　日頃の過ごし方等を伝え　ホームにも気軽にあしを運んで頂ける様な　雰囲気作りい努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症対策の為、外出は控え施設内で敬老会、納涼会などを通して交流を深めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場面に合わせて交流をする等　共に生活をする上で　理解し過ごせる様支援をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院等に　入院されたら　お見舞いに行ったり　家族っや本人の意向相談等にのり支援を行う様努めている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向や希望を把握し　共有する事で　本人本位のケアに活かしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みのある生活が継続出来る様　家族とも話し合い　生活習慣等にも配慮している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状をしっかり把握し　自立した支援　又　統一したケアが出来る様努めている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて課題や目標を考え　本人家族の意向を聞き　ケアプランに活かしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の気付きや申し送り等を活用し　情報の共有を行い　介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの行事への参加等あり　各棟にて家族と会食をしたりと　ニーズに合わせた　柔軟な支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、コロナ感染症対策の為施設外の行事には参加を控えている。また、学生の研修は可能な限り受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	係りつけ医と連携をとり　本人や家族の希望を大切にし　適切な医療を受けられる様支援を行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から利用者の状態を観察し　異常等がみられた際は　看護師と連携をとり　適切に受診が出来る様努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院退院の際　病院との情報の共有を行い家族ともコミュニケーションをとりながら主治医と　相談し適切なケアがスムーズに出来る様に　努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎えられた際は　家族の意思を確認し　事業所が出来る事等を説明し家族と話し合い　主治医とケアを行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での勉強会に参加し、スキルアップを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	コロナ感染症対策の為、5月は施設内関係者で行った。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合った言葉掛けや支援を行い　安全面も考え　プライバシーにも配慮しながらケアを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃よりコミュニケーションをとり　自己表現や自己決定がしやすい様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中　一人ひとりのペースに合った　その人らしく楽しい生活が送れる様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は本人の希望に合わせながら　おしゃれが出来る様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し　季節や行事に合わせた食事を提供している　又　食後のお盆拭きやエプロンたたみをして頂いている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの健康状態を考え　食べやすい様工夫し提供している　自力摂取困難な方は本人のペースに合わせ支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの状態や状況に合わせた　口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録や生活状況を踏まえて　排泄パターンを把握し　声掛け支援を行っているし		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にはバナナや牛乳を提供している　又予防につながる様な　食事を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望にそえる入浴支援を行っているが夜間帯や状況によっては難しい場合もある		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活状況を把握し　個々の状況に応じた支援を行っている　夜間は安眠出来る様に　生活リズムを整える様努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状を把握しうえで　服薬支援を行うと共に　日頃から健康観察を行い　体調の変化等に気付ける様努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や楽しみにしている事を　日常生活に取り込みながら　充実した生活が送れる様努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症対策により、施設敷地内で外でお茶会や納涼会を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族との相談、理解、同意を得る、働きかけを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、電話や伝言など取次ぎお手紙などは読んで差し上げるなど、身近に感じて頂けるよな環境を作っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	折り紙を一緒に行ったり、飾りつけを行ったり、四季折々を楽しみ感じて頂ける様工夫し、室温・湿度調整を行い快適に過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で、ゆっくり落ち着いて過ごせる時間または、イベント時フロアーでの過ごし方も考慮し、席替えや配置換え等も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の設置などの工夫、又、洗濯物等畳んで頂く。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場等誰でもわかる様に表示している。室内はバリアフリーにて安全に過ごせるような造りになっている。		